

しずおか 県民児協だより



36

第36号

平成30年9月1日発行

[題字：静岡県民生委員児童委員協議会顧問 天野隆玄 書]

編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内 ☎054-254-5224 ㊟054-251-7508

吉田町民生委員児童委員協議会活動について



定例会の様子

吉田町は、人口29,679人の町で、高齢化率は24・27%となっております。吉田町民生委員児童委員協議会は、地区委員50名（4地区）、主任児童委員3名の計53名の委員で日々活動をしています。

当協議会では、毎月第2木曜日に全員が参加する定例会を行っております。定例会では、地区別研修、部会別研修、全体研修と3種類の研修を月毎に行っており、地区別研修及び部会別研修では、それぞれテーマを決めて研修に取り組んでおります。テーマによっては、地域包括支援センターの職員や役場職員を研修へ招き、事例検討などを行い、研鑽を積んでおります。全体研修では、座学での研修だ

けでなく、県内の施設に訪問させていただき勉強させていただき活動も行っております。

また、毎年吉田町の福祉の日に合わせて開催される「ふれあい広場」という行事に参加しております、この

ふれあい広場で、当協議会はチャリティバザーを行っております。数か月前より、委員の家にいる衣類等を集めて、値札貼りから販売をし、当日の収益金については、社会福祉協議会へ寄付をしております。

吉田町の特色ある活動として、主任児童委員が実施する「すくすく広場」という活動がございます。この活動は未就学児を持つ親子を対象に、幼稚園及び保育園訪問や講座などを通して、未就学児を持つ親の交流の場となっており、毎回多くの方が参加をしてくださり、大変好評をいただいております。

各個人においては、朝のあいさつ運動や地域の見守り活動等を行い、それぞれが民生委員児童委員としての役割を果たし、住みやすいまちにするための活動を行っております。



県内視察研修の様子

平成30年度静岡県民生委員

児童委員協議会総会あいさつ

会長 松下悦郎

日時 平成30年6月5日

場所 グランシップ会議ホール「風」

みなさんこんにちは、平成30年度静岡県民生委員児童委員協議会の総会にお集まりいただきましてありがとうございます。

皆様方には、いつも地域の中での相談支援や、見守り等の幅広い活動に取り組み、地域福祉の推進にご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

また、本日は吉林副知事様、静岡県社会福祉協議会 神原会長様をはじめ多くの御来賓のみなさまには、公務ご多用の中、私ども総会に御臨席賜り、誠にありがとうございます。日頃より民生委員児童委員活動につきましては、格別なご指導、ご鞭撻を賜りますこと、重ね重ね御

礼申し上げます。

さて、平成29年度は、民生委員制度創設100周年・児童委員制度創設70周年の大きな節目の年でありました。平成30年度は、次なる100年に向けて新たな一歩を踏み出す重要な一年となります。

近年、少子高齢者の進行や住民同士の間関係の希薄化など社会や家族の姿が大きく変化するなかで、地域住民が直面する様々な生活課題や福祉課題はより複雑・多様化し、また深刻化しております。

このような中であって、いつも地域住民に寄り添い活動する民生委員・児童委員に寄せられる期待は大きく、その活動は幅



冒頭に挨拶する松下会長

広いものとなっておりますが、一方で委員の負担感も拡大している状況にあります。

昨年、全国民生委員児童委員連合会では、今後の民生委員児童委員の活動の方向性を示す

「100周年活動強化方策」を作成しました。その中でも、私たちの「活動しやすい環境づくり」が近々の大きな課題として取り上げられております。

また、私たちの活動を地域住

民はもとより、行政・学校・関係団体等に対して理解促進を図る広報・啓発活動や、委員活動の理解者・支援者のすそ野を広げる取組も必要であると考えているところでございます。

誰もが笑顔で、安全に、安心

して暮らせる社会づくりを、皆様と一緒に目指していきたいと思っております。

本年度も皆様方ますますのご健勝とご活躍をご期待申し上げます。まして、わたくしからの挨拶といたします。



来賓として挨拶する吉林副知事

地域包括ケアシンポジウム開催のお知らせ

豪華講師陣とともに「地域共生社会の実現」について一緒に考えてみませんか。

平成30年度静岡県

地域包括ケアシンポジウム



『平成』最後の豪華共演！



『地域共生社会』への挑戦



「地域共生社会の実現」に求められる地域包括ケアの推進には、制度の縦割りを乗り越え、地域住民や地域の多様な主体が参画し、つながることが重要となります。本シンポジウムでは豪華講師陣とともに「地域共生社会の実現」に向けた地域包括ケアのあり方について協議します。



10月29日(月)

13:15～16:15 開場12:30より

参加費 無料 定員 700人

対象 関心のある県民、行政、社協、地域包括支援センター、福祉施設・事業所、民生委員・児童委員等

基調講演 13:30-14:00

「最期まで地域で暮らすために」

講師：堀田 力氏(公益財団法人さわやか福祉財団会長)

対談 14:15-16:15

「地域におけるケアのあり方」

- ◎樋口 恵子氏 (NPO法人高齢社会をよくする女性の会理事長)
- ◎大熊由紀子氏(国際医療福祉大学大学院教授)
- ◎上野千鶴子氏 (認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長)
- ◎堀田 力氏(公益財団法人さわやか福祉財団会長)

申込締切▶平成 30 年 10 月 22 日 (月)

場所 静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ中ホール

問合せ先

静岡県社会福祉協議会地域福祉課
静岡県社会福祉協議会ホームページ

電話054-254-5224

<http://www.shizuoka-wel.jp/>

伊豆の国市

民生委員児童委員協議会の紹介

温泉と情緒あふれる歴史の街、富士山と反射炉の2つの世界遺産が見られる街として皆様に親しまれております「伊豆の国市」は、平成17年4月に大仁町、伊豆長岡町、菫山町の3町が合併し伊豆の国市となり、法定民生委員・児童委員協議会（以下民児協といいます。）も旧町名別に設置されております。

市民児協としては、市民への民児協の理解、認識を高めていただくため、3地区で伊豆の国市章のカラーを基にした同一デザインの色違いポロシャツを購入し、各種イベント等で着用して民生委員をアピールし、また、市主催の区連合会全体会で、民児協独自の手作りチラシを配付し、区役員に民生委員・児童委員を加えるよう要請しました。更に、年4回行っている「FMいずのくに」に各部長が出演

して、各部会の活動等を紹介し

民児協の広報に努めたり、毎年10月開催される社会福祉協議会主催の「市民ふれあい広場」において、3地区の理事が参加し民児協の広報を行っております。

委員の質の向上策として年2回全体研修を実施し、今年は初の3地区共同出席により、国際ボランティアとして活躍されている桑山紀彦氏を招き「地球のステージ」を試

民生創設100周年県大会に参加した伊豆の国市民児協の皆様



みました。また、昨年は福島県の小野町民児協と意見交換会を行い他県との交流も良い見識を高めております。更に、民児協をフォローするシステム「見守りネットワーク」も昨年10月か

ら行っております。

各地区における具体的な活動状況は次のとおりです。皆様方の参考になれば幸いです。

●長岡地区民児協活動紹介

37名の民生委員・児童委員と2名の主任児童委員により構成されています。活動のひとつとして、「おてらおやつクラブ」の取り組みを行っておりますので紹介させていただきます。



子ども達の貧困が、過去最悪の水準という深刻な社会問題に向き合い、少しでも無理のない支

援を長く続けていけたらという委員の意見で、昨年より「おてらおやつクラブ」の取り組みを始めました。定例会の会場入り口にダンボール箱を置き、日用品雑貨・菓子類・米などのお裾分けの品を、委員に持参いただき、箱の中に納めていただいております。お裾分けの品で一杯になった箱は、まるで玉手箱のようで、箱を覗く皆さんの表情は充実感で一杯です。定例会閉会后、お寺さんに報告の言葉を添えお供えしてきます。その後は、全国各地の子どもたちにぬくもりの込められたおやつが發送されます。

●大仁地区民児協活動紹介

39名の民生委員・児童委員と2名の主任児童委員で構成しています。

最近の研修について紹介させていただきます。

6月27日に地域密着型介護老人福祉施設「プレーグおおひと」を視察研修しました。この施設は、市内に6ヶ月以上住民登録

のある方で要介護度3～5の認定を受けた方が入居でき、現在29名の方が入居されており穏やかに生活されておりました。

また、7月5日に愛知県の「日本福祉大学半田キャンパス福祉テクノロジーズセンター」の見学会に参加致しました。誰もが普通に暮らすための支援技術研究により、健康社会の実現を目指すこと」がテーマの講義を受け、福祉用具の展示、自助具などの生活用品、介護用器、コミュニケーション機器などの見学をしました。



鈴木講師から支援技術の講義を受ける大仁地区民児協の皆さん

研修で学んだことを地域福祉活動に役立て、皆が幸福と感じる社会を目指そうと参加者一同決意を新たに致しました。

●葦山地区民児協活動紹介

45名の民生委員・児童委員と3名の主任児童委員で構成し、残念ながら7月現在3名が欠員している状況です。

昨年100周年記念事業の一環として「福祉の手、繋げて明るい地域（まち）づくり」のスローガンを策定し、このスローガンの実現に向け一致団結して活動してあります。

また、規約を全面改正し「研修委員会」を設け、研修委員会が企画・運営して、3年間の計画的な研修を行っております。

特徴的な活動として、一



餅つき交流会での一コマ（葦山民児協）

人暮らしの高齢者を対象とした、配食サービス活動や春秋期の火災予防点検の立ち会い実施、市民ふれあい広場への焼きそば出店の協力、餅つき交流会への協力等を行っております。餅つき交流会では、委員が三味線演奏を披露し好評を博しました。

地域の実態に即した実質的な活動を目指し、定例会終了時に「花咲く郷土」を全員で合唱するなど、委員相互の連帯を深めこれからも積極的な活動を展開して参ります。

ひろば

熱海市の課題

熱海市
民生委員児童委員協議会

新掘 祐造

熱海に対して、一般的にどのようなイメージをお持ちでしょうか？きつと、温泉観光地……だと思えます。では民生委員児童委員の立場で考えると、どうでしょうか？少し考える時間をとって、先をお読みください。

熱海市の高齢化率は、県下の市の部では、第1位（46・32% 平成30年4月1日現在）。また、市町の部でも第3位です。高齢者が多い関係で、救急車出動の人口1万人当たりの割合も県平均の約2倍です。（但し、観光地のため、市外の方の割合が3割ほど含まれています。）さらに、詐欺電話の件数の人口比の割合も、4倍弱と非常に多い現状です。

そこで、さし迫った課題は、高齢者問題です。熱海市では、65歳以上の高齢者世帯の訪問調査を継続的に行っています。私の場合、医療関係・金銭問題・家族関係・地域問題等多岐にわたる内容が話題となり、似たようなケースでも当事者の受け方は千差万別です。熱海市では、平成27年11月26日から平成30年1月15日まで死亡事故ゼロが780日続きました。高齢者の事故割合が多い状況を考えて、偉業と思います。今後も警察署や市役所と連携を取り、声掛け見守り活動を続けていきたいと思えます。

100年の歴史を記念プレートに

清水町
民生委員児童委員協議会

原 とく

昨年度は民生委員制度創設100周年の年にあたり、東京ビッグサイトにおいて、天皇皇后両陛下のご臨席をおおぎ全国大会が行われ、静岡県では、グランシップにおいて静岡県民生委員児童委員大会が行われました。私達、清水町では、「セルフネグレクトと生きがいについて」「世界一の超高齢化社会を……」「遺品整理から見える地域コミュニティの大切さ」を演題に記念講演会を開催しました。また、献身的な活動を続けて来られた先達の皆さまの歴史を残したいとの思いから、記録に残る309名の氏名を刻んだ100周年記念プレートを作成し、今年度の民生委員の日に啓発活動も念頭に置いて除幕式を行う運びとなりました。当日はこれまでの活動を表すような晴天に恵まれ、アトラクションをお願した地元中学生吹奏楽部の生徒さんや保護者のみなさまへの啓発も出来たと感じています。



守秘義務を遵守することにより、活動が見えない実態がある中で、民生委員の活動を知っていたただくのはとても大切な事と考え、町広報誌などにも掲載していただき、広く啓発活動に努めています。困ったときに、気軽に相談していただき、必要に応じてしかるべき関係機関につないでいく活動を、誇りを持って次の世代に繋いでいきたいものです。

西日本大災害の惨状に思う

焼津市
民生委員児童委員協議会

松村 正志

この度、西日本を襲った大雨により被害にあわれた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

惨状をテレビの画面で見ると、あまり酷い状況に言葉も出ませんでした。

被害にあわれた方々への思いと同時に、私は、この地域の民生委員児童委員の方々はどうされているのだろうと思わずにいられません。これは、「自分も民生委員児童委員をやっている」という気持ちからです。

それにしても、災害から何日も経たないうちに、多くの方が救援に行かれ、労苦を惜しまず活躍されている姿をテレビで見ると、自分の行動力の無さを恥じると同時に、嬉しさも勇気をいただいています。

一方で、私たちは日頃の民生委員児童委員活動の中で、ささやかながらもこのような活動を行っています。少なくとも、自分としては、その様に思いながら活動に励んでいきたいと思えます。

ひろば

朝の見守り活動



川根本町
民生委員児童委員協議会

中村 文子

毎週月曜日、朝七時二十五分から十五分間「中央小見守り隊」の緑のタスキをかけて、三叉路に立ちます。

「来た来た、子ども達が来たぞ」私の活動開始。先頭と後尾の高学年に見守られて、小学生の集団が通ります。一年生はランドセルに目立つカバールをかけているので一目で分かります。「おはようございます」、「おはようございます」とあいさつをかわします。あいさつひとつとっても個性が出ています。口をキュッと結んで、声は出ていないけれど、心の中ではきつと言っているだろうな。「行つてらっしゃい」今日もよき一日でありますように。

私が見守りを始めたのは三年前。下校中の中学生が見知らぬ人に家まで後をつけられたことがあります。私にできることのひとつが朝の見守りでした。四月、五月は、回数を多くしています。子どもたちのすこやかな成長を願って。

委員活動の「もと」



袋井市
民生委員児童委員協議会

曽我 裕一

地域の情報を得ることが民生委員児童委員の活動のもとになり、委員の皆さんも地域住民の情報に気を配っていることと思います。しかし、事が起こってしまったあとに知る状況もあり、民生委員として冷や汗をかく場合もあるかと思えます。

個人情報開示、プライバシーの問題や委員の「おせっかい」問題などがあり、簡単には情報は得られません。すでにある情報をもとに委員として行動するのは当然ですが、地域の中で自分が民生委員児童委員であることを住民の方々に知ってもらい、日常の会話の中で得た情報を自分自身が委員としての活動であるかどうかを考え、行動していくのが自然体ではないかと思えます。

自治会の各種委員の名簿の中に必ず民生委員児童委員を明記してもらおうことをはじめ、地域内の美化運動、防災訓練、お祭り、シニアクラブの催事など、いろいろな行事にできるかぎり顔を出して自分が民生委員児童委員であることを軽く伝えながら普通の会話の中から地域内の状況を知っていく。それを私なりの活動の源の一つの方法としています。

気負わない活動を



森町
民生委員児童委員協議会

竹下 絹子

民生委員とは？諸先輩方の顔ぶれや、活動内容に私の性格では無理と一度はお断りしたものの、4期目を迎えてしまいました。

昨年は民生委員制度創設100周年記念大会に参加させていただき、第13代静岡県知事の笠井信一氏が民生委員制度をスタートさせた経緯、笠井氏の遺品や歴史的資料の展示品を見し、あらためて身の引き締まる思いを感じました。

100周年記念事業に合わせ森町では、山本会長の発案で委員各自が自宅から持参した品をバザーに出品し、売上金で「民生委員100周年記念ファイル」を作成、町内の幼・小・中学校へ配布し、PR活動を行いました。

また、毎年、町内の幼・小・中学校へ委員手作りの雑巾を届ける活動や、町内にある福祉施設の掃除に出かけたりするなど、委員活動への信頼感も増しております。

森町は65歳以上の高齢者のお達者度が、静岡県内では女性1位、男性も上位を堅持するなど、みんなが生涯元気で暮らせる森町をめざし、各地域での「居場所づくり」に関心が高まっています。様々な活動場面で、地域の方と関わりが生じますが、気負わない活動を心がけております。

平成30年度関東ブロック 民生委員児童委員活動研究協議会報告

静岡県民生委員児童委員協議会 常任理事 高橋 敏行

去る6月26日、27日の2日間、山梨県甲府市の甲府富士屋ホテルで、関東ブロック民生委員児

童委員活動研究協議会が開催されました。

1日目の来賓挨拶、続いて全体会では地域版活動強化方策について、現在とこれからの民生委員児童委員の活動についての話がありました。

また、基調講演では認定NPO法人フードバンク山梨の米山けい子理事長が「フードバンク活動から見える子どもの貧困」という演題で講演されました。

子どもの6人に1人が貧困であるが、困窮家庭は声を上げにくい状態である一方、学校現場からは子どもの様子から貧困が見えていると話されました。

2日目は、4分科会に分

かれ「地域のつながり、地域力を高めるために」をテーマとする第2分科会に参加し、静岡県代表として当町民児協が協力しているふれあい懇親会（1人暮らし懇親会）、ふれあい広場（ふくし健康祭り）と町内小学校の防犯教室の内容について報告、加えて静岡県が県下の小学校対象に自分の身は自分で守る体験型防犯教室「あぶトレ」を、平成25年度から取り組んでいることも報告しました。

他の民児協からもそれぞれの取り組みについて報告があり、横浜市民児協からは、長年運営しているふれあい会について、さいたま市民児協からは、地区民児協で委嘱している民生委員協力員について、新潟市民児協からは、ヤクルト配布による安否確認について説明がありました。また、分科会のコーディネート、地域の渡辺裕一教授からは、地域力を高めるためには孤立を生み出さないことが必要という説明がなされました。

編集後記

総会で本年度事業計画が承認されました。制度創設二百周年に向けての第一歩を踏み出すことが基本方針の冒頭に示されています。

しかしながら重点推進目標では前年踏襲の域を脱しません。

われわれ民生委員・児童委員活動の内容は変わることなく永遠に続くのでしょうか？

担当地域での問題はいつかは解決出来ることが多いのですが。

私の場合、自身のチカラでの解決ではなく超高齢化社会から施設への入所、天国への召喚などでの終結もあります。

児童委員活動では、幼児の虐待が報じられています。問題掘り起こしさえ難しいと感じています。居場所づくり、子ども食堂などに尽力されてる皆様には頭が下がります。

当誌三十四号で紹介された百周年全国大会の講演、鎌田實氏のことは『人間の生き方は民生委員の一言でも変わり得る』『全国民が民生委員活動を理解すると希望の持てる社会になる』『簡単に民生委員を辞めないで欲しい。この国のために』を再掲させていただきました。

（ハの字）

